

みんなのビジョン

SEIG Voice

2023年、聖学院ビジョン（中期計画）第二期がスタートします。
中期計画は理事長室会議にて話し合われますが、
学内外の関係者はどんなビジョンを持っているのでしょうか。
これまでの経験や、これからの聖学院に望むこと。
在校生、保護者、教職員、卒業生、関係団体の方々に聞いてみました。



持続可能な世界の実現に向けて 行動できる学校にしたい

ネイザン・ブレイクスリー
Nathan Alexander Blakeslee先生
（女子聖学院中学校・高等学校 英語科教諭
Native English Teacher Coordinator）

私は女子聖中高で18年教えています。女子聖は様々なタイプの生徒の、それぞれ違った学びへの興味を受け入れられる学校だと感じています。女子聖で実現したいことは2つあります。1つは、生徒たちが学校内で野菜の栽培を学び、自分たちで育てた野菜を食材として、購買部で調理して提供するということ。2つ目は、太陽光や風力などの再生可能エネルギーを学校に導入したいというアイデアです。持続可能な世界の実現に向けて、SDGsを学ぶだけでなく、行動につなげるべきだと考えています。

I've been teaching for 18 years in JSG. I feel that JSG can accommodate many types of students with different learning interests. I have a vision of two feasible things in JSG. First, I wish that JSG grew its own vegetables that the kobai-bu used to make food. Second, I wish JSG used more sustainable electrical resources such as solar panels and windmills. To realize a sustainable world, I think that we must not only learn about SDGs but also take action.

ASF NEWS & NEWS LETTER review

(ASF NEWS No.59 P07、小山 浩史さんのコメント概略)



「上尾周辺でのボランティア活動に限らず、教会やクリスマスツリーがランドマークになっていることや大学が防災拠点になっていることなど、聖学院は地域に根ざした存在です。」

CATEGORY
01



社会貢献 地域連携



キラリと光る個性的な学校として 学び直しの提供を

佐藤 光敏 さん
（上尾市職員）

聖学院大学とは市民としてイベント参加をきっかけにご縁をいただき、現在は大学院の聴講生として学んでいます。緑豊かで穏やかな環境の中、教職員の皆さんもフレンドリーで親しみやすい学校という印象があります。以前、上尾市内の施設で映画の上映会を開催する際に、作品にちなんだ解説をお願いしたいと相談したところ、職員の方々が親身になって話を聞いてくれ、ステキな先生をご紹介くださいました。映画会当日は、来場の皆さんにとっても喜んでいただきました。これから小さくともキラリと光る個性的な学校であっていただきたいと期待しています。現役大学生に加え、生涯学習として学ぶ人やリスキングとして学ぶ人などが、相互に交流する多様性のある場になったらステキですね。



子どもたちにとって 安心できる場所



これからも地元から愛され、 ホッとする場所であってほしい

関 雄次さん
(聖学院みどり幼稚園 保護者・卒園生)

みどり幼稚園はとにかく「やってみる」を大切にしてくれます。遊びからの学びが心を成長させ、一人ひとりが自分の居場所に誇りや自信を持つことができます。丁寧なお祈りに包まれて、感謝の気持ちや優しい心遣いが育ちます。私は第2期の卒園生で、娘3人もお世話になりました。在園時の先生に長女のクラスを受け持っていたいただき、奇跡のようでした。娘たちの行事にも楽しく参加させていただきました。みどり幼稚園で学んだ園児たちは本当に気持ちが温かい人が多いです。卒園しても「お帰り」「ただいま」と帰れる幼稚園です。これからも地元から愛され、ホッとする場所であってほしいです。また、自然が多く大きな園庭も変わらずにいてほしいです。



子どもたちや保護者の 心の支えとなれるような 学校であれたら

ほんがいのしゅり
半谷 樹理先生
(聖学院幼稚園 教諭)

聖学院は一人ひとりを愛し、大切に思ってください学校だと思っています。私自身、女子聖学院在学時に当時の宗教主任の先生に寄り添っていただきました。進路に迷っていた際、バングラデッシュへのスタディーツアーの参加を勧めいただき、その時出会った子どもたちが目を輝かせて学校で過ごす姿が忘れられず、保育の現場に立ち続けています。今後も聖学院は、まず私達教師が子どもたち一人ひとりを愛し信頼することで、子どもたちや保護者の方々に安心していただける、心の支えとなれるような学校であれたらと思います。また、各校の枠をもっと解き放ち、縦のつながりをより密接に連携していけたら、上手く稼働する部分があるのではないかと感じます。



子どもたちが安心して成長できる 場所であり続けてほしい

富田 菜穂子さん
(聖学院幼稚園 保護者委員)

聖学院は子どもたちがのびのびと自分らしくいられる幼稚園だと思います。お互いの個性を受け入れながら、心も体も成長できているように思います。今年の年長はコロナでほとんどの行事を通常の形で行えませんでした。先生方がその時々状況に合わせて工夫を凝らし、子どもたちのためにできることを一生懸命に考え実現してくださいました。特に泊まり保育では、弾けるような子どもたちの笑顔をたくさん見ることができました。初めての親子遠足で行ったお芋掘りも最高の思い出になりました。子どもたちを取り巻く環境はどんどん変化していますが、これからも聖学院は変わることなく、子どもたちが安心して成長できる場所であり続けてほしいと願います。



一生懸命があふれている、 毎日が魅力的な生活の場です

こうだいくえ
国府田 郁絵先生
(聖学院みどり幼稚園 主幹教諭)

聖学院みどり幼稚園は、神様から愛されているかけがえのない存在として、一人ひとりの心や姿、一人ひとりにとっての時間や環境が大切に考えられている教育現場だと思います。小さな子どもたちの一生懸命があふれている、毎日が魅力的な生活の場です。泣く、笑う、歌う、考える、困る、喜ぶなど、子どもたちの心が動いている証である表情や姿に出会うと、その一つひとつや一瞬一瞬をより愛おしく感じます。これからも、「今ここにいる人々にとっては、そこが安心して自分らしく過ごせる場所」、「もうここを巣立った人々にとっても気持ちの拠り所となる場所」、そのような聖学院でありたいと思います。

ASF NEWS & NEWS LETTER review

(ASF NEWS No.60 P08、高須 萌先生のコメント概略)



「幼稚園が子どもたちにとって、安心して過ごせる場所、自分らしくいられる場所であることを心がけています。子どもは認めてもらえるとうちに良い笑顔になります。」

(ASF NEWS No.60 P07、古田 しおん先生のコメント概略)



「みどり幼稚園は子ども中心で保育を考えます。子どもの興味を大切にし、遊びを深めたり、最後までやりきったりすることが非認知能力を育て、後の探究的な学習にもつながります。」



ESD・SDGs教育の ロールモデルとなる学校に

いざわ ともひろ
井澤 友郭 さん
こども国連環境会議推進協会 事務局長
ESD・SDGs教育ユニットアドバイザー

聖学院中高では、レゴ®を使った中1のSDGsワークショップや中3の糸魚川農村体験事前学習を毎年担当しています。過去「こういう生徒に育ててほしい」というゴールイメージを言語化する教員研修にも関わりました。聖学院中高の先生は、どんな生徒に育ててほしいのかという目的がしっかりしているので、コロナ禍のような変化も前向きに捉えることができ、チャレンジする先生を応援する文化があります。また、私も参加している聖学院のESD・SDGs教育ユニットの取組みは意義のあるものです。単にSDGsを学習テーマとするだけでなく、持続可能な社会の創り手を育む学びの場を実現し、SDGsを学校運営の要においた、ロールモデルとなる学校になってほしいと思います。

ASF NEWS & NEWS LETTER review

(NEWS LETTER No.280 P05、佐藤 充恵先生のコメント概略)



「自分の発見から自分なりの考えや感覚を持つということはとても重要です。心が動いて、そして見方が変わるという流れを作れるよう授業作りを試行錯誤しています。」

CATEGORY
03



"自ら学ぶ"を大切に 主体性を育む学校



120周年を契機に、聖学院全体で 活気ある学校づくりを

えんどう まりこ
遠藤 茉莉子先生
(女子聖学院中学校・高等学校 保健体育科教諭)

女子聖学院中高は、生徒の主体性を尊重して、やりたいことを実現させてくれる学校です。運動会、記念祭、合唱コンクールなど、いずれも生徒が主体の行事です。教員は、生徒を見守り、決して否定はしません。「まずはやってみようか!」と声をかけ、チャレンジを後押しします。しかし、新型コロナウイルス感染拡大がそうした生徒のチャレンジの機会を奪い、以前のような活気あふれた本来の魅力が減少しつつある気がします。そんな今を、新しい女子聖を創っていくチャンスとポジティブに捉え、女子聖の伝統、女子聖らしさを大切にしつつも、新しい風を取り入れていくべきなのだと思います。聖学院創立120周年を契機に、聖学院全体で盛り上がり、活気ある学校にしたいですね。

CATEGORY
04



学力では測れない 人間教育



他の学校にはない特徴を持った 学校であり続けてほしい

勝倉 雄二 さん
(聖学院小学校 同窓会長)

聖学院は人が成長する上で必要な、心の真ん中あたりのことを教えてくれる、そんな教育のできる学校だと思います。自分の小学校時代のことですが、季節や天候に合わせて屋上や校庭で授業をしたり、必要に応じて時間割を変更するといった柔軟な対応をもらったことは忘れることのない楽しい思い出です。聖学院には、これからも学力のような一般的な社会的尺度だけではなく、他の学校にはない特徴を持った学校であり続けていただきたいと思っています。また、幼稚園から大学まで、変化を恐れずお互いの学校の良い部分を積極的に取り込み、法人全体のレベルを高めていていただきたいと思っています。



聖学院小学校で好きなおとこ

にしやまのあ
右:西山 乃蒼さん(聖学院小学校 2年生)
こばやしあおい
左:小林 蒼依さん(聖学院小学校 5年生)

わたしが、聖学院小学校ですきなおところは、みんなで楽しく学んで、あそんで、お祈りすることです。ほかに、みんなですすけ合う、元気で楽しい学校だと思います。おたん生日の時は、先生がギターをひいてくれたりします。あそびにいれてほしいとき、友だちからさそってくれるのが、うれしいです。わたしは、聖学院小学校が大すぎです。(西山さん)

聖学院小学校で、私が好きなおところは「聖学院フェア」があることです。なぜかという、抽選、バルーンフィッシング、スーパーボールすくい、射的など、たくさんのゲームがあって、とても楽しいからです。そのほかに好きなおところは、宿泊行事がたくさんあることです。宿泊行事では、今まであまり話さなかった子と仲よくなったことがとてもうれしかったです。(小林さん)

ASF NEWS & NEWS LETTER review

(ASF NEWS No.60 P05、新井 裕子先生のコメント概略)



「女子聖学院中高は生徒が中心になって物事を進めます。でも困ったときには必ず先生がそばで見守っていて相談にのってくれる。そういう温かさがありました。」



オンリーワン・フォー・アザーズを 体現する学校

みやたかのぶ
宮 隆允先生
(聖学院中学校・高等学校 理科教諭)

聖学院中高は教育の理念である「オンリーワン・フォー・アザーズ」を体現しようとしている学校だと思います。他のミッション系の学校の多くが同様の理念を持っていますが、聖学院中高の場合は、他のミッション系の学校と違い「オンリーワン」にも焦点が当てられているという特色があります。そしてそれは「個人の意思が尊重され、行動の自由度が高い」という風土を育ててきました。行動の自由度の高さは生徒に限らず教員にも当てはまります。それぞれの想いを駆動力とした個人の力はまさに私たちの強みとなっておりますが、今後はそうした個人の想いが、個人を超えた学校全体の想いとして育ち、さらに強力な全体の力になれば良いなと思っています。



これからも「一人」を大切に 大学でいてほしい

石井 ひよりさん
(聖学院大学心理福祉学部心理福祉学科 4年)

大学でハンドベル部の部長を経験しました。聖学院の先生や職員の方は、部長という役割を超えて個人として向き合い、寄り添ってくださる方が多くいます。今は部員が与えられましたが、部長として始まった4年の春、部員は自分一人という状況を経験しました。そんな時、コーチや職員からの「一人でも残ってくれたら続けられる。支えるから、一緒にがんばろう。」との言葉に勇気づけられました。私はハンドベルがきっかけで、神様の存在を知りました。聖書に「苦難は忍耐を、忍耐は練達を、練達は希望を生む」という言葉があり、今の自分を支えています。聖学院はこれからもミッションスクールとして、キリスト教を大切にしてもらいたいと思っています。

キリスト教教育 一人ひとりを 大切にする



変わりやすい世界の中で、 変わらないキリスト教教育を大切に

木村 太郎 先生
(聖学院大学心理福祉学部 チャプレン)

聖学院で勤めて3年目、チャプレンとしては今年から大学3年生の授業を持っています。現在の3年生はコロナの影響によって1、2年次の多くをオンラインで過ごしました。授業のリアクションペーパーを読むと、孤独や分断を経験した苦しみが伝わってくるようです。キリスト教からの問いかけに対し、反発するにしても受け入れるにしても、真剣に応答しようとする姿が見られます。聖書の言葉に慰められた、と語ってくれる学生もいます。この神様からの「問い」は、聖学院がこれまで100年以上守り続けてきた大切な宝物。変わりやすい世界の中で、時が良くても悪くても、これからも変わらずに聖書と礼拝を中心にした共同体であってほしいと思っています。

ASF NEWS & NEWS LETTER review

(NEWS LETTER No.281 P10、高橋 恵一郎チャプレンのコメント概略)



「生徒たちはそれぞれ様々な課題を抱えています。そんな生徒が『あなたはここにいていいんだよ』という言葉が神様から聞けたら、どんなことでも乗り越えていけるのではないのでしょうか。それが『神を仰ぐ』ということだと思います。」



こうすれば もっと良くなる!

- 留学生に加え、社会人もたくさん学んでいるような多様性のあるキャンパスになったら良いと思います。
- 教員も職員も個々が持っている力を共有し、学校全体の力に変えていけたら素晴らしいと思います。

- 学ぶだけではなく、行動に移す力もより一層重視してほしいです。
- 伝統を大切にしながら変化を取り入れる柔軟性を大切にしてほしいです。
- これからも地域に愛される学校だと嬉しいです。

- 幼稚園から大学院まで、学校の枠を超えた縦のつながりを強化していけばもっと良い法人になると思います。
- 聖学院みどり幼稚園の自然豊かで大きな園庭はいつまでも保ち続けてほしいです。